



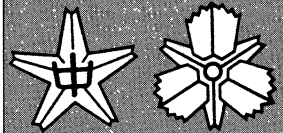
発行所

〒921
金沢市泉野出町3丁目10-10
石川県立金沢泉丘高校内

一泉同窓会

電話(0762)42-0211

1993.4.25発行



100周年
特集号

一泉創立100周年記念祭

いよいよ日は近し!!



母校創立100周年も間近となりました。記念事業や10月14日～19日に開催される記念行事の準備は着々と進行しています。今回は米谷半平記念事業実行委員会委員長と澁谷亮治一泉同窓会会長にお話を伺いました。



澁谷 米谷さんは、一中創立50周年の時、5年生でいらしたそうですね。

米谷 そうです。昭和17年でしたが、10月15日から10日間ほど記念行事が行われました。もっとも戦時中のことです。時局に呼応した行事が多かったように思います。同窓会からグライダーが寄贈され、その命名式(桜章一号)と滑走大会もありました。ところで、澁谷さんの中学生時代はいかがでしたか。

澁谷 私は50周年の年に入学し、2年から一中在籍のまま、名古屋陸軍幼年学校へ入学しました。敗戦で、8月末に復員して4年にもどり昭和21年3月、年限短縮により4年で卒業しました。

戦時体制の中での勤労働員とか、また転校者・引き揚げ者などの多い中学生活でした。

米谷 一泉同窓会結成の経緯について、お話し下さいませんか。

澁谷 金沢一中は、昭和23年の学制改革によって幕を閉じたのですが、明治41年に結成された同窓会は、閉校の時7,300名の会員を擁していました。一方、金沢一中の校地・校舎を継承して発足した泉丘高校ですが、昭和29年3月まで2,000名の会員を数える、泉丘高校同窓会を別に結成していました。この二つの同窓会の接近のきっかけになったのが「厳霜碑の再建」だといってよいでしょう。

厳霜碑は卒業生の戦没者を顕彰するために明治41年10月15日に建てられたもので、一中学生の精神

的支柱でありました。また、碑の完成を機会に、10月15日が創立記念日に定められました。しかし、敗戦により昭和22年1月、厳霜碑は学校によって自主的に撤去されました。昭和28年4月、同窓会関係者は種々協議の末、戦没者の慰霊碑ではなく、広く物故会員の慰霊碑とする方針を定め、泉丘校地内に厳霜碑が再建されたわけです。このことによって一中同窓生の中には、「失われた母校」のイメージを泉丘高校に求める動きが高まり、二つの同窓会の合併の呼びかけへと発展していったわけです。昭和30年2月関係者のご尽力により、両同窓会が合同合併し、「一泉同窓会」が結成されました。

いよいよ、100周年の年を迎えましたね。6年前から準備に取りかかり、平成2年秋に組織ができました。米谷さんは実行委員長としてご苦勞も多かったと思います。

米谷 大きな事業ですから。事務局・実行委員の方々には大変苦勞をかけました。しかし、4月3日の常任委員会でご了承いただいたように、各委員会とも詰めの作業を残すだけで、準備の大方は整いました。

ところで、私は、100周年の事業や行事は誰のためのものかという事で、つねづね考えていることがあるんです。折りにふれて話してきた事ではありますが、これは、同窓生や現在・将来の泉丘高校生のためのものであるのはもちろんですが、今

一つ、一中や泉丘高校を支えて下さった地域の皆様そして石川県民に還元できる記念事業・行事でありたいと思っているのです。

澁谷 私も全く同感です。ところで、100周年の基調テーマ“宇宙をめざせ、新しい世代のエネルギーに点火を”は夢のある言葉ですね。これはまた、伝統に培われて21世紀へと飛躍する泉丘高校の姿をあらわす言葉にもしたいものです。

米谷 ここで行事について、お話ししましょう。

10月15日の物故者慰霊祭、それに続く式典で記念行事は本格的に開幕となります。

式典後の講演会の講師は、大河千弘君（一中52期）にやってもらいます。彼は東大助教授から渡米し、当時「頭脳流出」とさわがれましたが、現在、アメリカのゼネラル・アトミックス社の副社長です。核融合研究の第一線で活躍しており、演題は「21世紀の展望」（仮題）となっています。

式典と翌日の音楽祭で発表される100周年記念歌の歌詞は、在校生からの公募で、3年生の井上品子さんの「明日の^{アイ}I」（大山修平教諭補作）が選ばれました。一泉をイメージした美しい詩です。

元泉丘高校長の宮崎光二君（一中54期）を中心に進められている記念フォーラムは、若者に刺激を与える場にしたいと企画しております。

記念美術展は、創立80周年を記念して結成された一泉桜美会が中心になって進めています。100周年にちなんで、大きな100号の作品に挑戦している方が少なくないと聞いております。

記念スポーツ大会は、運動各部の在校生とOBによる親善試合を開催することになっており、ゴルフ・コンペも行われます。

行事のメインに、記念展覧会を開きます。基調テーマに沿って母校の100年のあゆみと100年後の泉丘高校を写真・模型・パネル・ビデオなどで展示します。特に「100年後の夢の学園」は在校生より

募集したもので、100年保管する事を考えています。また、100年前、一中創設当時輝かしく誕生した星の光を今見る100光年星のウォッチングなど、多数の県民・市民の方々の参加を頂ける話題性のあるものにしたいと企画が進められております。

澁谷 私は記念事業についてお話ししましょう。

まず第一は、次代の泉丘高生の育成のための「一泉同窓会基金」の設立です。事業の目的を次のようにきめました。「母校の国際交流の推進と、学術・スポーツ・文化の振興に資するため助成を行い、もって母校のより一層の発展に寄与する」こととし、初年度の基金の設定額を7,500万円としました。皆さんからの募金の半分をこれに充てることになっております。

次は、同窓会資料室と70周年記念図書館の整備・充実をしております。この費用は同窓生の皆さんの募金のほかに、職員（現・旧）とPTA（平成2年度泉丘43期～平成7年度）から2,000万円の寄付を頂きます。

また、『同窓会名簿』・『百年史』を発刊をします。できるだけ多くの皆様にご購入をお願いしたいと思います。また、『人材マップ』の発刊準備も進んでおります。

米谷 100周年の事業・行事については、はじめはいろいろと議論がありましたが、母校に思いを寄せる同窓生の親睦、後輩の育成、そして一中・泉丘高校を支えて下さった地域の方々へのお返しという事を考えれば、この内容でよかったと考えております。

澁谷 母校創立100周年記念事業推進のため、先般来、同窓生各位に御芳志をお願いしましたところ、多くの方々のご賛同を得ましたことを厚くお礼申し上げます。また、この募金をお世話下さいました各期の委員のご苦労は大変なものであったと存じます。ありがとうございます。

100周年記念という性格上、同窓生個々の総意を集めてこの事業を推し進めることに意義を感じているものでございます。会員各位のなご一層のご協力を重ねてお願い申し上げます。



